



企画

- 御存知浅草貴婦人会
- 続・続(ソク・ソク)展
- 浅草ダンスビデオ
- ジョン・ダウランド物語

短評

10年間の中で最多の応募数を記録した初年度。その中から選ばれたのは、築100年以上の歴史を持つ旧市田邸での作品展示・ワークショップや、ダンス・パントマイムと街歩きツアーの融合、コンテンポラリーダンスのビデオ上映、浅草聖ヨハネ教会でのコンサートといった、個性あふれる4作品。申請した側はもちろん、採択する側も手探りの中の審査でしたが、後の10年間の採択の方向性が示された1年となりました。

ART

DANCE

MUSIC

DRAMA

OTHER



Title

御存知浅草貴婦人会

主催者
チェリータイフーン開催期間
2008.07.19—11.29会場
浅草花やしき、サムライカフェ

かつて、浅草に花開いた芸術を再び浅草で起爆させる

かつて浅草に花開いた芸術、ボードビル、レビュー、マイム、シャンソン、バーレスクを浅草で起爆させること。そしてそれによって国際的交流・地域的交流・世代的交流を活性化させることを目的とし、『御存知浅草貴婦人会』を結成しました。浅草貴婦人会のメンバーは、発起人であるバーレスクダンサーのチェリータイフーン、シャンソン歌手のあやちクロードルなど。そのほかダンサー、歌手、イラストレーター、一級和裁士、パントマイマーなど幅広くバラエティーに富んでいます。

【開催状況】

「～浅草貴婦人会の銀座線プロジェクト～日本最古のメトロ『銀座線』をJACK! 聖地・浅草に皆来たれ!!」と題し、浅草・銀座・渋谷の3箇所をメイン会場に設定しイベントを展開

しました。そのうち浅草編が支援対象となっており、三社祭や朝顔市、四万六千日、花火、御酉様などといった浅草のイベントの紹介をしました。また、1人ではなかなか行けない素敵なスポットを回るツアーとショーもお送りしました。『御存知浅草貴婦人会総決起集会』では、浅草雷門からライブ会場の花やしきまでを、人目をひく衣装を身に纏ったメンバーがアattend。まち歩きとライブを鑑賞するツアー編と、浅草のイカしたバンド浅草ジントのロックバー銀幕ロックでのライブを鑑賞するネオン編をお送りしました。ツアー編では浅草貴婦人会総代のチェリータイフーンによる、脱がないバーレスク演目「あの歌」、二人組のガールズ・ボードビルユニット、小心ズによる言葉を使用しないリズムパフォーマンス「クシコスポスト～タンゴ」、日本



と西の市で賑わう鷲神社界隈を散策する夜のまち歩きツアーも開催。サトコとチェリータイフーンの「月に吠える女」や、あやちクロードルの「七つの大罪」が披露されました。

企画者からのコメント

の女性パントマイミストの代表格であるバーバラ村田による、可愛らしくも不思議な演目「うさぎちゃん」が披露されました。ネオン編では、セピア色の誘惑というテーマのバーレスク作品であるチェリータイフーンの「追憶」、「ラ・カージュ・オ・フォル」、あやちクロードルがモンバ里大流行の往時を偲びつつ、浅草への愛を込めて、現代に通じる感性でのびのびと歌うライブ「浅草にささげるシャンソンの夜」が行われました。また「御存知浅草貴婦人会「かっこめ!」ナイトハイキング」という、サムライカフェ浅草でのライブ



総決起集会花やしきライブ編

支援制度を受けたことにより、かつてのボードビル・バーレスク全盛期を知る浅草のお年寄りから子どもたちまで、広く認知してもらう機会をいただきました。地元の方には「新しい演芸の流れがある」と知っていただき、また台東区外から来訪された方には「台東区の街の魅力」や「あたらしい演芸の可能性」を同時に体感できた、という声が聞こえ、その後の参加者の活動の励みとなりました。主宰チェリータイフーンは、その後バーレスク・ボードビルでの活動の幅を広げ、2011年にカナダに移住し、モントリオールを拠点に世界各国のボードビル・シーンで活動しました。2016年から心臓病で無期限活動休止となってしまいましたが、本企画の出演者である「バーバラ村田」と「あやちクロードル」は国内外を問わず広く活躍。「小心ズ」は、モントリオール国際フリンジフェスティバルで最優秀英語演劇賞を獲得するなど、個々に発展的な活動をしています。



総決起集会花やしきライブ編



総決起集会ネオン編



チラシ



メンバー

ART

DANCE

MUSIC

DRAMA

OTHER

Title
続・続展

古き良き文化や物に対して新しい価値を見いだす

主催者
続・族開催期間【平成20年度】
2008.07.19—27開催期間【平成21年度】
2009.07.18—26開催期間【平成22年度】
2010.07.17—25会場
市田邸、貸はらっぱ音地、
旧吉田屋酒店、上野桜木会館、
森商店

『続・続(ゾク・ゾク)』展のコンセプトは、「古き良き物に対して新しい価値を見いだす」です。先人が長い年月をかけて培った伝統的な知恵や工法は、古くさいの一言で片づけられるものではありません。むしろ、そのようなものに触れてこなかった私たちにとっては、伝統的な知恵や工法が新鮮なものにさえ見えてきます。新しいものを批判するわけではなく、古いものの中にも新たな価値を見出し、新しいものと古いものがバランスよく存在する町こそが、面白く魅力的な町なのではないかと思えます。2008年に発足した『続・続』展は、アートや市田邸を通じて、上野桜木・谷中界隈に新しい風を吹き込ませることを目的に企画。2008年から3か年にわたり開催しました。

【開催状況】

初年度である『続・続』展は、地域の人

や谷中の街を訪れる人、そのほか様々な人たちに、「上野桜木にある築100年を越える日本家屋の有形登録文化財である市田邸を知ってもらいたい!」という想いから発足。「アートで人を集められないだろうか」と、二人のアーティストによる彫刻作品を市田邸で披露しました。会期中は、「続・続」というイベントの名前にちなんだゾクゾクする怪談話を披露する落語会や、活版印刷のワークショップも開催しました。<参加作家・作品名 ●大平龍一「セミシングル」●森一朗「幻氷」>。2回目となった2009年度『続・続・続』展。大きなコンセプトである「古き良き文化や物に対して新しい価値を見いだす」は変わらず、2人の彫刻アーティストと1人の映像作家、さらにコピーライターの計4名が新たに加わりました。そのほか、谷中にある空き地「貸はらっぱ

音地」を会場に加えインスタレーション作を披露。また、会期期間前から関連企画として、市田邸で採れた竹を使用した紙すき&はがき作成するワークショップを行いました。竹を処分せずに紙として生まれ変わらせるという、続・続のコンセプトに合った企画です。<参加作家・作品名 ●大平龍一「セミカミサマ」●コマドル「Shoes」●重田佑介「谷中町内怪談」●新見文「笑顔の記憶」●森一朗「兜鬼・変泉」●並河進「家が出したら」>。

そして3回目となった2010年度『続・続・続』展は、参加作家や展示会場をさらに増やし、全10名・5会場での開催となりました。前年度に引き続き、参加した作家は市田邸を飛び出て谷中の街に大きく作品を展開させ、谷中の魅力をさらに引き出すことを目指しました。また、ワークショップ・トークショー・お茶会・ゲーム体験など展示以外のイベントも充実させ、過去最大の規模にすることに成功しました。<参加作家・作品名

●阿部沙耶香「メメントスイッチ/プレイヤー」●播本和宣「hidden layers」●西岳拓貴「BUNGEE GUM」●望月俊孝「うつつみ」●大川莉恵「やなかじかん」●大平龍一「MIBOKU」●尾崎真悟「記憶@別邸」●張光瑋「別庭」●重田佑介「谷中たてものがたり」●森一朗「森庭」>



活版印刷WS

企画者からのコメント

支援制度を受けて金銭面でのメリットも大きかったですが、それ以上にアドバイザーの皆さまに深く企画・運営に関わっていただいたというメリットの方が、圧倒的に大きかったです。また本企画は3年間行いましたが、その間に、町の方々と関わりを深めることができました。中でも2年目を終えたあとは、参加していた一人のアーティストが、谷中の町に実店舗を開店。企画の開催期間以外でも、アーティストと町が繋がる場を作ることが出来たことは、非常に良かったと思っています。



ポスター



メンバー

ART

DANCE

MUSIC

DRAMA

OTHER



Title

浅草ダンスビデオ

主催者

城之尾薫 (JOU)

開催期間

2008.10.13—14

会場

花やしき通り、浅草神社、
デザイナービレッジ、小島公園、
雷門、仲見世、雷門柳小路、
ひさご通り、大黒屋、ちんや

ダンスに興味がなくとも楽しめるビデオ作品を！

『浅草ダンスビデオ』は台東区の街を舞台に、ダンスという身体表現を用いた映像作品です。敵と戦う冒険ゲームが子どもたちの間に数多く出回る昨今、ゲームの魅力と台東区の街の魅力を効果的に用い、ダンスに興味のない人でも気軽に楽しんで見ることができるよう内容を目指し企画しました。約12分のビデオ映像作品は、冒険ゲーム形式の画面から始まり、最初に進むコースと主人公 (JOU) を選択します。JOUが歩く浅草を中心とした街並みの先々で出会う相手と、戦いの代わりに個性的なダンスによる対決が繰り返されます。対決をする個性的なダンスには、「自分らしさ=個性」を踊りで表現するコンテポラリーダンスという現代芸術ダンスをメインキャラクターにすえ、獅子舞など浅草ならではの伝統的芸能を設定に加えるなど、

滅多に見られない豪華なダンスとの組み合わせも本作品の魅力のひとつです。最後のクライマックスでは、一般公募したエキストラ出演の方々と、町で暮らす人々の集うダンスを披露しました。台東区及び日本の街並みとそこで表現されるコンテポラリーダンスの魅力のアピールするため、作品完成後に国内外のビデオダンス映像フェスティバルへの上映展の働きかけを行いました。そして2011年にIDILL2011 (ベルギー) にてノミネートされ、ヨーロッパで上映されました。

【開催状況】

対決の舞台は、伝統ある町並みや世界に誇れる芸能が根づく浅草界隈に設定しました。神社や商店街、町会など様々な方にご協力いただき、台東区ならではの場所で撮影が実現しました。主催者であり主演ダンサーであるJOU

は、台東区など東東京エリアを拠点に活動するコンテンポラリーダンサー・振付家です。オープニングは、冒険物のロールプレイングゲームをイメージ。キャラクターを選択し、主人公のJOU (赤い髪・服の女性) が浅草のまちに登場するところからスタートします。STAGE.1は「オヤジ対決」。雷門前からスタートし、仲見世や花やしき通りへ。そこですれ違う通行人や人力車を次々とかわしていきます。最後は、サムライ (伊藤虹) とダンスパフォーマンスで対決します。STAGE.2は「獅子舞対決」。浅草神社の手水舎で出会った



完成後上映の様子

狛犬が獅子舞に変身。浅草の老舗すき焼き「ちんや」宴会場を舞台に江戸里神楽若山社中の鈴木恭介さんによる獅子舞とダンス対決します。STAGE.3は「市民との対決」。対決の舞台を体育館へ移し、人力車に乗っていた市民A・Bとその仲間である市民Cとのダンス対決です。そして公募で募ったエキストラの出演者総勢28名と、主人公JOUによるダンスパフォーマンス「NEW GAME ハート10個を集めてダンスマスターを目指せ!!」も開催。5歳から70歳代までダンス経験関係なく、たくさんの方々に参加いただきました。撮影当日は、各自持参したさまざまな衣装で盛り上がっていました。

企画者からのコメント

区の方やアドバイザーの方のサポートで大変助けられました。地元との交渉もとてもスムーズにいき、地域密着で作品が作れたことは大きなプラスとなりました。本作は、海外でも評価されさまざまな反響をいただきました。2010年より武蔵野美術大学の映像学科で身体表現を教えています。今でも区の協力により成功した作品として紹介すると学生の評判も良く、区に全面協力いただけた幸せな企画として語られています。



撮影の様子



撮影の様子



メンバー

ART

DANCE

MUSIC

DRAMA

OTHER



Title

ジョン・ダウランド物語
～あるリュート弾きの生涯～主催者
佐藤亜紀子開催期間
2009.03.28—29会場
浅草聖ヨハネ教会

浅草聖ヨハネ教会

文化遺産の聖堂に響く懐かしくて新しい古楽の調べ

『ジョン・ダウランド物語～あるリュート弾きの生涯～』は、ヨーロッパ中世からバロック期まで非常に親しまれていた楽器リュートの名手であり、16世紀後半から17世紀前半にかけて数多くの名曲を残し活躍したイギリスの作曲家、ジョン・ダウランド(1563—1626)の生涯を「音楽物語」として紹介するコンサートです。古楽、リュート音楽というジャンルをさらに幅広い人々、世代に親しんでもらうこと。そして物語を通して、リュートという楽器を楽しく分かりやすく紹介することを目的に企画しました。

【開催状況】

今回のコンサートの会場となる浅草聖ヨハネ教会は、明治9年にウィリアムズ主教(江戸監督)のもと、クーバー宣教師らによって講義所として

開設されたというとも歴史のある教会です。現在の教会は、昭和3年に建てられたゴシック風建築の歴史ある建物で、昭和20年の下町大空襲で炎上大破し、戦後の昭和30年に修復献堂されました。礼拝堂内部の天井の梁がとても美しい教会で、平成20年7月に国の登録有形文化財に登録されています。今回の「音楽物語」では、ジョン・ダウランド作品の演奏や影絵を披露しました。また、ダウランドの言葉として英詩朗読に日本語ナレーションを入れる演出も行いました。ダウランドのリュート曲やリュート伴奏による声楽曲に加え、ダウランドの作品にリコーダーを加えて編曲したもの、ダウランドの歌曲をリュートの独奏曲に編曲したもの、ダウランドにまつわる別の作曲家の作品を、以下の10名のメンバーによって披露しました。

＜◎佐藤亜紀子(リュート、プロデュース) ◎広瀬奈緒(ソプラノ) ◎上杉清仁(アルト)、鏡貴之(テノール) ◎渡辺祐介(バス) ◎森吉京子(リコーダー) ◎ティモシー・ハリス(朗読) ◎森紀史子(ナレーター) ◎浜崎ゆう子(影絵制作) ◎竹浪明(舞台監督)＞ジョン・ダウランドの生涯をたどる場面では、演奏と一緒にジョン・ダウランドの生きていた当時の風景や場面、ダウランドの心情などを現した影絵を制作し、スクリーンに投影しました。会場である教会の内装を生かし、場面によってはスクリーンだけでなく教会内の天井や壁にも投影



公演の様子

し、幻想的な雰囲気を作り出しました。また、17世紀エリザベス朝の雰囲気を演出するために、出演者の衣装も当世風のものを用意しました。最後はジョン・ダウランドの曲に、この企画の発案者であるリュート奏者の佐藤亜紀子さんが歌詞をつけた歌「春がやってきたね」をお客様と一緒に合唱しました。2日間とも満員のお客様に会場いただき、普段聞けない音楽を聴くことができたと好評な意見をいただきました。

企画者からのコメント

他の分野とのコラボは、なかなか自分の力だけでは実現するのが大変なので、採択されて本当に嬉しかったです。いろいろなジャンルのアドバイザーの方々に助言をいただいたことや、自分では思いつかなかった会場をご提案いただき、結果的にはそこできたことが良かったです。区民の皆さんにも幅広く告知していただき、2日間の公演が満席になったのも助かりました。台東区での公演後、山形県でも同じ企画を開催しました。当時の共演者等は個々の演奏活動を積極的に行なっております。山形での公演以降この演目は再演されていませんが、またいつかできればと思っています。



公演の様子



チラシ



メンバー